

Innovator
in electronics

Murata Report 2011

Corporate Report
CSR Report

Innovator in Electronics®

ムラタが作っている電子部品のことを、
多くの人は知りません。けれども、ほとんどの人は
ムラタの電子部品を使っています。
パソコン、携帯電話、家電製品、カーエレクトロニクス…。
より小さく、より高機能に、
日々めざましく進化を続ける電子機器の中で、
ムラタの電子部品は活躍しています。

Innovator in Electronics®

電子部品は、変わり続けています。
ムラタもまた、変わり続けたいと思います。
時代の動きを受け止め、
まっすぐにお客様を見つめ、
現場でのものづくりに誇りを持ち、
たえず新しい課題にチャレンジする、
エネルギーに満ちた
改革者 (Innovator) であり続けたいと思います。
変わらない信念を持って、大胆に変わっていく。
ムラタはどんな時代にも
イノベーターであり続けます。

Index

Corporate Report	01	Innovator in Electronics®
	02	Index
	03	トップメッセージ
	05	バリューチェーン
	07	ムラタの事業領域
	09	アプリケーション別製品紹介
	15	財務ハイライト
CSR Report	17	グローバルネットワーク
	19	CSRコミットメント
	21	地球温暖化防止
	23	環境保全推進
	25	従業員への責任と行動
	27	社会・地域への責任と行動
	29	仕入先様への責任と行動
Profile	30	リスクマネジメント
	31	新規事業とCSR
	33	CSR活動における目標と実績
	35	第三者からのご意見
	36	国内外拠点一覧
	37	役員一覧
		株式の状況
		大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

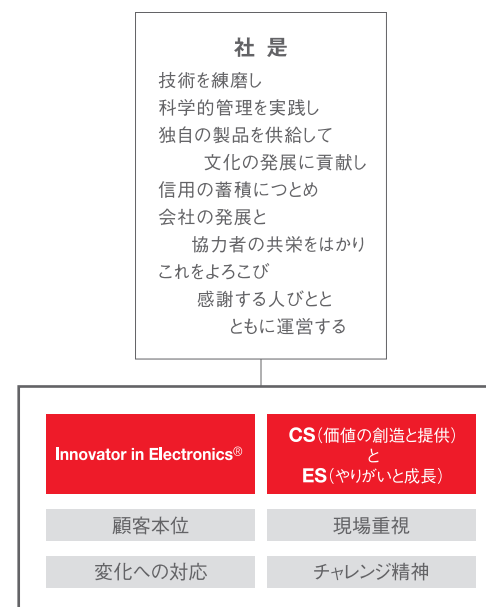


変わらない価値観、 チャレンジし続ける戦略。

私たちの仕事はお客様に「驚きと感動」を提供できているか。
ともに働く仲間たちは「やりがいと成長」を実感しているか。
一人ひとりが自らにそう問いかけ、実践していく。

ムラタは創業以来、社是に込められた想いを全従業員の思考と行動の礎としてきました。また、著しく市場環境が変わったここ数年は、CS（価値の創造と提供）とES（やりがいと成長）を大事な価値観として経営すると宣言しています。営業・製造部門や事業部だけでなく、開発部門やスタッフ部門も含めて一丸となって同じ想いで、お客様のために行動することができるムラタを目指しています。

ムラタは昨年、市場を3つにセグメントした中期構想をスタートさせました。第1に、新興国市場では、速さ、安さ、身軽さでお客様を魅了し、シェアNo.1となることを目指します。第2に、中核市場では、個別の部品だけでなくムラタがもてる総合力を発揮してお客様の課題を解決する戦略的パートナーシップを確立します。第3に、新規市場では、お客様をはじめ、さまざまなパートナーとともに商機をみつけだすことのできる期待の新人になります。これらを実現するための戦略はそれぞれ異なりますが、いずれの市場においても、お客様に認めていただける価値を創造し、提供できているかを、一人ひとりが問いかけていきます。そして、一貫した戦略のもと迅速な意思決定ができる、太く、短いバリューチェーンで組織をさらに一体化させ、お客様ニーズの多様化や、変化の激しい市場環境に対応していきます。これからも市場ごとに最適なアクションを加速させ、真にお客様価値を向上させることができるムラタでありたいと思います。



代表取締役社長 **村田 恒夫**

お客様価値を創出する ムラタのバリューチェーン。

お客様への想いで、私たちはつながっています。

お客様に価値を提供するのは、営業部門だけの仕事ではありません。
製造部門や企画開発部門はもとより、総務、人事、経理などのスタッフ部門も含めて
オールムラタが、緊密に連携しながら、まっすぐにお客様に向かうベクトルを共有すること。
その統一された意思の中で、自分の役割を発見し、遂行すること。
強くて闊達な組織を生む、それがバリューチェーンの思想です。

- Point 1

自らの機能・役割を捉える。
自分に何ができるのか、何が求められているのか。自分の仕事がお客様とどうつながっているのかわかると、見えてくるものがあります。
- Point 2

事業部ラインと機能スタッフの連携。
お客様と直接のつながりを持つ事業部ラインと、それを支える機能スタッフ。双方がお客様志向の想いを共有することで理想的な連携が生まれます。
- Point 3

機能スタッフ間の連携。
事業部ラインの向こうにはお客様がいる。その想いを考え方の基礎に置き、機能スタッフが相互に連携することで戦略的な強さを発揮します。



ムラタの技術が活躍するフィールドは、
これからますます広がります。

自動車、環境・エネルギー、ヘルスケア...

電子部品にできることは、もっと多彩に。

ムラタの技術が、エレクトロニクスの可能性を押し広げていきます。

携帯電話やコンピュータ、AV機器など、エレクトロニクスの中心的な分野から、

自動車や環境・エネルギー、ヘルスケアなどの新領域まで。

これからムラタは新しい価値を提案していきます。

それが、Innovator in Electronics®。

もっと魅力的な明日が、ここから生まれます。



Automotive Electronics

〔自動車〕

人にも地球にもやさしいクルマを目指して。

安全、快適、そして環境にやさしく。

クルマに求められる機能・性能は高まるばかりです。

エレクトロニクスがクルマの夢を実現します。



Environment, Energy

〔環境・エネルギー〕

持続可能な社会のために。

環境負荷の低い新しいライフスタイルを提案するの

も、エレクトロニクスの役割。エネルギーの課題を

エレクトロニクスの技術が解決します。



Healthcare

〔ヘルスケア〕

さまざまなシーンであなたの健康をサポート。

人の動作や気持ちを読み取るセンシング技術、

それを伝えるネットワーク。

エレクトロニクスで健やかな生活をサポートします。



Audio and Visual, Communications, Computers, Home Appliances

〔AV・通信・コンピュータ・家電〕

世界中のあらゆる人の暮らしを快適に。

私たちの日常を支える電子機器。

より多くの人の近くで、より便利に、より高機能に進化し続けます。



Audio and Visual

テレビは能動的に使いこなす時代へ。

—テレビの中で、ムラタが「情報化」のお手伝い—

大画面化と高画質化に加え、
周辺機器とのリンク機能や通信サービスとの融合により、
テレビは見て楽しむだけでなく、
もっとも身近な情報端末に変わりつつあります。
高解像度信号のワイヤレス伝送や、
省エネも実現する電子部品があります。



電子機器に「Innovation」を 生み出す電子部品。

電子機器がますます小さくなったり。

どんどん新しいことができるようになったり。

機器の「中」から新しいことを始める、それが電子部品の仕事です。

小型化、高機能化、多機能化は、ただ機器を便利にするだけではありません。

それは、毎日の暮らしの中に新しい価値を生み出すもの。

コミュニケーションのあり方が変わり、仕事のスタイルが変わり、

ライフスタイルや楽しみ方が変わる、小さな電子部品の、大きなインパクト。

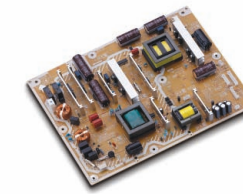
もしあなたの生活が去年と今年で変化していたら、きっとその変化のきっかけに、ムラタがいます。

AV機器の中にあるムラタの主要製品



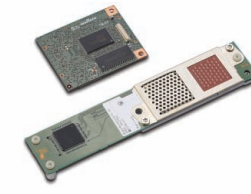
赤外線センサ

人体を感知して、誰も見ていないときは液晶のバックライトを消す省エネユニットを構成します。面実装タイプなので、テレビの薄型化にも貢献します。



スイッチング電源

発熱による電力ロスを低減する高効率電源。小型・薄型のユニットとして提供しています。



WirelessHDモジュール、 IEEE802.11nモジュール

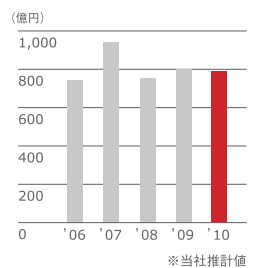
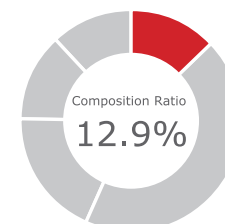
ハイビジョンの大容量データを無線送信するモジュール。レイアウトフリーのホームシアターを実現します。



薄型テレビをコアマーケットに。

新興国でも需要の伸びが著しい薄型テレビは、コンデンサなどのコンポーネント部品の需要を牽引しているほか、省エネ用の赤外線センサ、省エネ・小型化に貢献する電源モジュールなどのニーズを喚起しています。また、AV機器のネットワーク化の進展で、レイアウトフリーを実現可能にするWirelessHDモジュールなどの無線モジュールの需要は、今後大きく伸びていくことが期待されます。

■ AVの売上構成比と売上高



Communications

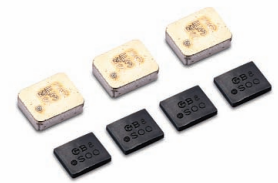
あなたと、未来と、安心と、つながるケータイ。

—そこには、もっとつながりたいムラタがいます—

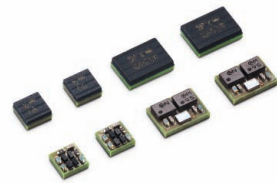
世界中の人々が手に取る携帯電話。
より高速で大容量な通信サービスも登場し、
多様化やスマート化が進む一方で、
機能を絞ったシンプルなモデルの需要も拡大しています。
高周波部品やセンサ、機能モジュールが、進化と普及に貢献しています。



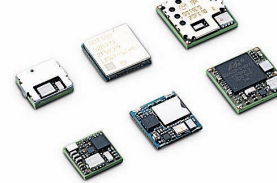
携帯電話の中にあるムラタの主要製品



表面波フィルタ、表面波デュプレクサ
無線信号の中から必要な成分だけを取り出すフィルタやデュプレクサは、高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度に貢献しています。



スイッチプレクサ®
ノイズを取り除くフィルタリング機能や送受信を切り替えるスイッチング機能を担う部品。多層モジュールの技術でコンパクトかつ高信頼性を実現しています。



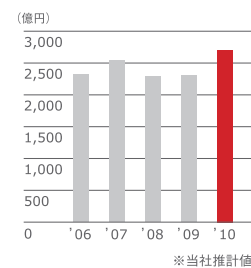
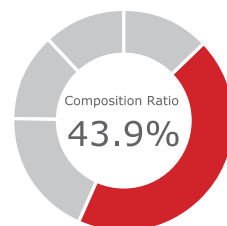
通信モジュール
無線LANによって携帯電話からインターネットにアクセスするためのデバイス。携帯電話の多機能化の流れをリードしています。



高性能携帯電話の普及が成長ドライバーに。

ムラタの電子部品の需要として、最も大きな割合を占めるのが携帯電話です。携帯電話台数の伸びもさることながら、第3世代携帯電話やスマートフォンといった高性能機種種の普及が進み、コンデンサや表面波フィルタなど携帯電話1台あたりの部品搭載点数が格段に増えており、今後も大きな成長が期待できます。

■ 通信の売上構成比と売上高



Computers

いつでも、どこでも、コンピューティング。

—「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから—

インターネットやクラウドサービスの普及で、簡単に持ち運べて簡単につながる、モビリティの高いPCが注目を集めています。
電子部品の小型化、高周波化、バッテリーにやさしい低損失化、そして信頼性と、快適な操作性を実現するセンサなどで、新時代のコンピューティングをサポートしています。



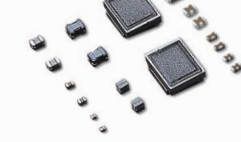
コンピュータの中にあるムラタの主要製品



ショックセンサ
衝撃や振動からハードディスクを守る役割だけでなく、触る、振るなどの簡単な動きで操作できるマウス不要のコンピューティングを実現します。



積層セラミックコンデンサ、低ESLコンデンサ
MPUに供給する電力を安定化させる小型大容量コンデンサ。モバイルPCの小型、薄型化に貢献します。



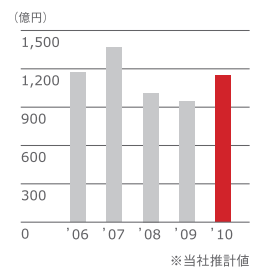
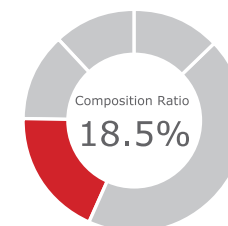
チップフェライトビーズ、チップエミフィル®
PCの多機能化によって、PC内のノイズ環境はさらに厳しくなっています。ムラタ伝統のノイズ対策部品がさまざまなノイズの問題を解決します。



モバイルコンピューティングが新たな成長段階に。

パーソナルコンピュータのCPUの高速化にともない、コンデンサやノイズ対策部品の需要が拡大しています。また、ハードディスクドライブの衝撃検知用のショックセンサでは圧倒的なシェアを維持しています。さらに、無線通信機能を搭載したタブレットPCの登場により、ムラタの得意とする高周波部品での成長も期待されます。

■ コンピュータ及び関連機器の売上構成比と売上高



Automotive Electronics

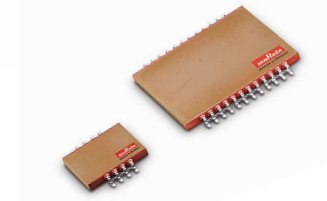
地球にとって、人にとって、車の技術はこれからももっと。

—だから、ムラタには、まだまだやることがいっぱい—

人と地球にやさしい環境性能を追求して、クルマの電子化や電動化が進んでいます。セラミックの耐熱特性を活かした高信頼性電子部品が過酷な環境の中で性能を発揮。大電力対応のパワーデバイスはハイブリッド車や電気自動車の進化を加速させます。



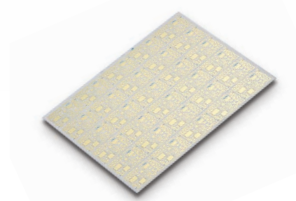
自動車の中にあるムラタの主要製品



積層セラミックコンデンサ(大電力用)
ハイブリッドカーのモータを制御するインバータ回路に使われる、大電力用の積層セラミックコンデンサ。省スペース設計に対応しています。



超音波センサ
駐車時の障害物までの距離を検知する装置に使われます。ドライバーの負担を軽減することで快適なカーライフをサポートします。



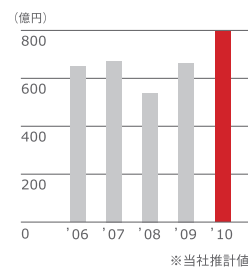
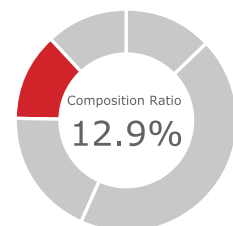
LTCC多層基板
低温焼成のセラミック基板で、高信頼性が要求されるパワートレインコントロールのECU(エンジンコントロールユニット)などに使用されます。



エコ、安全、快適のための多彩な電子部品需要。

エコカーが主流になるにつれて自動車の電子制御化が一層進み、コンデンサをはじめとした電子部品の需要は急速に伸びています。また、安全装備に用いられる超音波センサや、カーナビのジャイロセンサ、Bluetooth®モジュールなども好調。自動車関連全体では今後も高い伸びが期待できます。

■ カーエレクトロニクスの売上構成比と売上高



Home Appliances

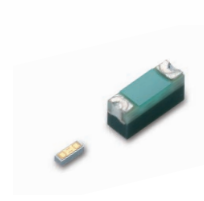
エコな暮らし、おしゃれだと思います。

—ムラタの電子部品で、ちょっとスマートに—

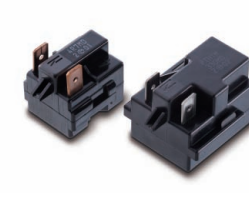
空調機器や照明器具など、日々の暮らしで使う家電製品には、より一層の省エネルギー化と環境への配慮が求められています。低損失で長寿命なセラミックコンデンサや変換効率の高い電源モジュール、機器の利用状況をモニタして制御するセンサや通信モジュールなどが、スマートなホームエレクトロニクスを支えています。



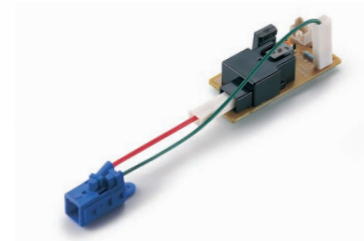
家電製品の中にあるムラタの主要製品



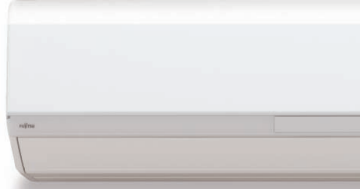
アンチヒューズ素子
LED照明機器に使われます。LED照明の省エネ・長寿命性能を向上させるための保護素子です。



モータ起動用ボジスタ®
冷蔵庫用コンプレッサーを起動するときに発生する電流を制御。省エネ運転で低炭素社会実現に貢献します。



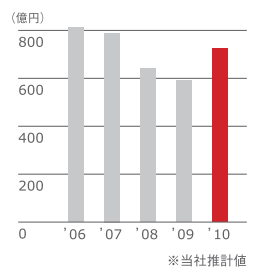
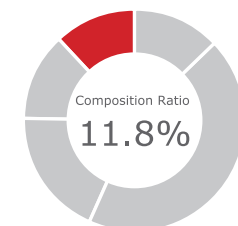
イオナイザ(イオニシモ®)
カビやウイルス、空気清浄対策ならびに肌保湿に有効なイオン発生装置。空気をケアする新しいライフスタイルを提案します。



新しい豊かさとしてのエコ価値の提案。

いわゆる白モノ家電は生活の豊かさを実感できる商品ジャンルです。新興国市場では冷蔵庫やエアコン用のサーミスタなどが拡大しています。先進国では、家電製品は省エネ化の主要なターゲットであり、LED照明の電子制御部分などにも、ムラタの電子部品が使われています。

■ 家電・その他の売上構成比と売上高

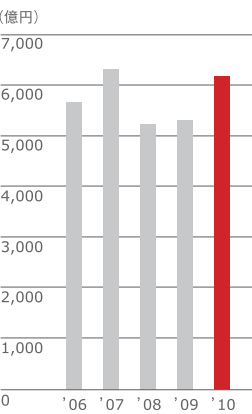


Financial Highlights

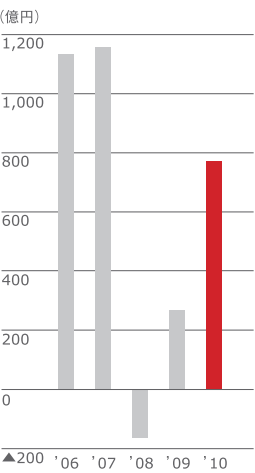
成長を続けるエレクトロニクス市場。
ムラタの電子部品が、それをリードします。

ムラタは、2010年度、携帯電話、パソコン、デジタルAV機器など主要機器の生産が好調に推移したことに加えて、電子機器の高機能化が進行したことにより、売上高で16.4%の高い成長を達成しました。
2011年度も、スマートフォンやLEDテレビなどの高機能な電子機器の需要拡大、タブレットPCの本格的な拡がりや、ハイブリッドカーの普及拡大により、コンデンサやノイズ対策部品、高周波部品などで、引き続き成長が期待できます。

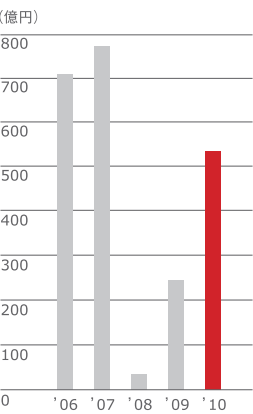
売上高



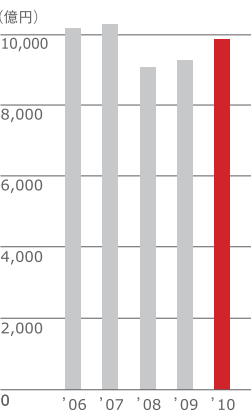
営業利益



当期純利益



総資産

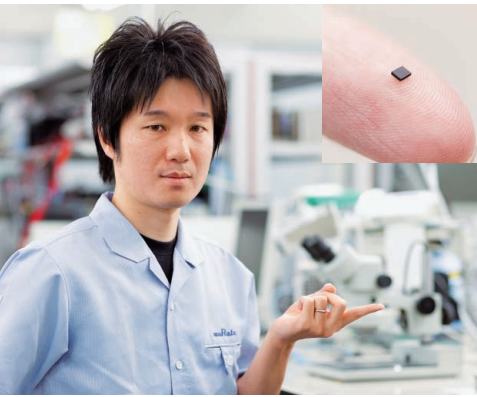
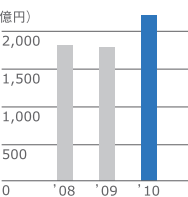
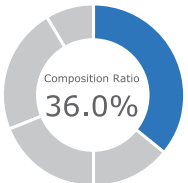


■ コンデンサ

スマートフォンなど、新市場に向けて一層の高性能化を追求。

積層セラミックコンデンサはムラタの主力商品であり、とりわけ小型大容量品についてはアドバンテージがあります。スマートフォンやタブレットPCなど、新しい市場が求めるさらに高性能なコンデンサを追求していきます。

株式会社村田製作所 セールスエンジニアリング統括部
吉田 智司

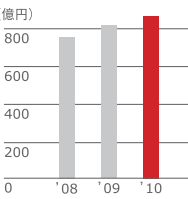
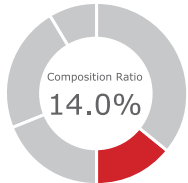


■ 圧電製品

設計力と供給能力をさらに高めてクラウドの世界へ。

表面波フィルタ、デュプレクサは、携帯電話などで周波数を選択的に通すための部品です。ムラタの製品は、良好な周波数特性を導き出す設計力と、世界中に安定的に出荷できる供給能力で群を抜いています。クラウドコンピューティングなど、新領域にも挑んでいきます。

株式会社金沢村田製作所 第1高周波部品商品部
小村 知久

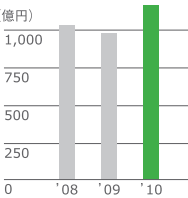
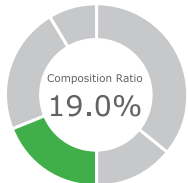
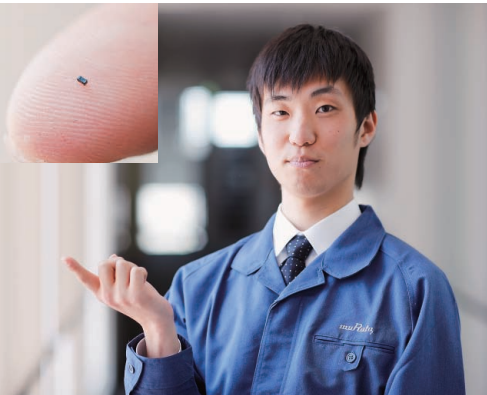


■ その他コンポーネント

総合電子部品メーカーとしてトータルソリューションを提供。

ノイズ対策 (EMI) 部品の分野では、ムラタには多くの技術的蓄積があります。そのノウハウをもとに、単体の部品だけでなく、さまざまなノイズ対策データや回路設計の提案なども含めて、総合的なソリューションを提供しています。ムラタの総合力を誇りに思っています。

株式会社村田製作所 EMI事業部
大里 哲也

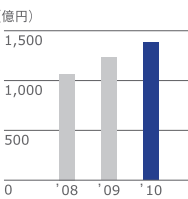
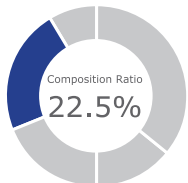


■ 通信モジュール

通信によって広がる新しい世界をサポートしたい。

Bluetooth®、無線LANをはじめとする通信モジュールは、携帯電話やパソコンだけでなく、最近ではテレビ、デジタルカメラ、冷蔵庫などの家電製品やヘルスケア商品にも搭載されて、生活の利便性や安全性に寄与しています。新しい分野への挑戦をサポートしていきたいと思います。

株式会社村田製作所 通信モジュール商品事業部
佐野 則子

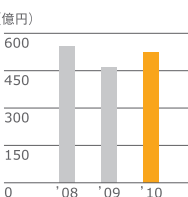
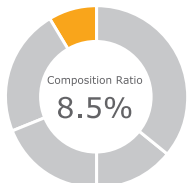
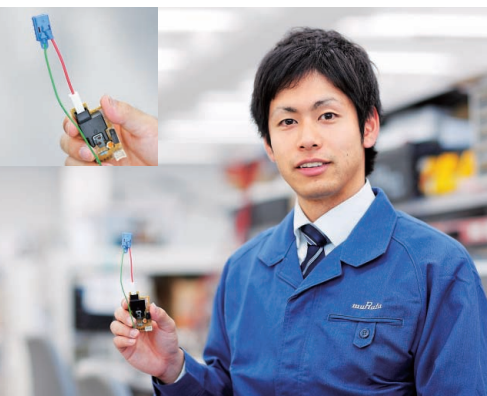


■ 電源他モジュール

価値提案型の新しいビジネスモデルに挑む。

イオン発生装置イオナイズは、高圧電源技術と素子の印刷技術をベースに、除菌や空気清浄機能を開発して、さまざまなセットメーカーに提案している商品です。価値提案型の商品で、従来のムラタとは少し違った形のビジネスモデル。新しいことに挑戦する面白さを感じています。

株式会社村田製作所 パワーモジュール商品事業部
西本 圭助



Global Network

Global Network

さまざまな地域で、66社。
世界のそれぞれの場所で、ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品のおよそ85%は海外で販売されています。

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパ。

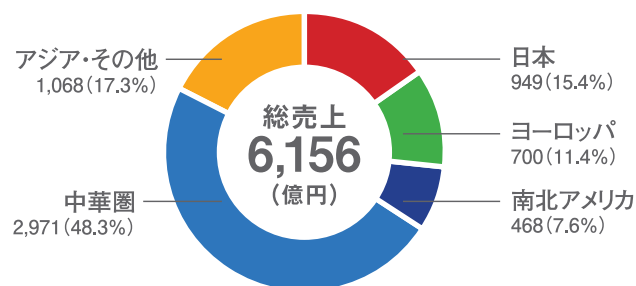
それぞれの拠点が、同じポリシーのもとにお客様志向を貫くだけでなく、それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。

そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間として

ひとつの目的に向かって進んでいけるように。

世界のムラタが、足並みをそろえています。

■ 地域別売上高



※地域別売上高、関係会社数は2011年3月31日のものです。
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

America



Murata Electronics North America, Inc.
Marketing Manager
Application Development Manager

Scott Klettke

売上高 468億円

関係会社 7社

PROVIDING INNOVATIVE SOLUTIONS
IS A TEAM EFFORT.

もはや製品を販売するだけではビジネスはできません。私たちは、お客様にソリューションを提供しビジネスパートナーとして認めていただくために、営業とマーケティングがチームとなって機能します。また、あらゆる機会でムラタの革新的なソリューションを理解していただき、ムラタの存在を示していきます。



Europe



Murata Elektronik GmbH
Senior Sales Manager
Business unit National Accounts

Manfred Fischer

売上高 700億円

関係会社 13社

New markets - New Challenges

ヨーロッパではHEVやEVなどのエコカーに加え、再生可能エネルギーも注目を集めています。これはまさにムラタがチャレンジすべき新市場。ムラタヨーロッパはチーム一丸となってお客様のニーズをいち早くつかみ、ご要望にお応えできる製品を提供して、さらなる成長に貢献していきます。



Japan



株式会社村田製作所
センサ事業部 センサ商品部 部長

中谷 和義

売上高 949億円

関係会社 23社

団結は力なり!

お客様は、いつも商品に「新しい機能」を求めています。ムラタは、そのソリューションを創造し提供することができる会社です。そのために、本社が中心となりグローバルレベルで総合力を発揮します。太く短いバリューチェーンで高いCSを実現します。

Greater China



村田電子貿易(深圳)有限公司
Senior Manager
Sales & Marketing Department

周 曙江 (Jesse Zhou)

売上高 2,971億円

関係会社 14社

More seedsmen Activity and challenge Now!

ムラタグループで最も売上の大きい中華圏には、多くのR&D機能も集まりつつあり、ビジネスの種まきをする重要な市場として新しい顔を見せています。ムラタ中国は、お客様に新しい製品・サービスを提供するためにグループ一丸となり、より一層成長が期待されるこの市場でのビジネス拡大とムラタの成長に今後も貢献していきます。

Asia and Others



Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Assistant General Manager
General Administration and
Information Services Department

Lam Pin Toh

売上高 1,068億円

関係会社 9社

Our Best is Yet to Be.

ムラタシンガポールは、インド、ベトナムを含むアセアンと新興国市場に焦点を当てた拡売を継続し、新興国市場向け製品の製造にも注力します。グローバルカンパニーとしてさらに飛躍するため、私たちはたえず改革と価値創造を行い、ムラタグループの結束力を高めて継続的發展を目指します。

CSR Report 2011

地球とともに、社会とともに、人とともに Innovator in Electronics®



代表取締役社長
村田 恒夫

ムラタが創業以来、活動の礎としてきた社是には「文化の発展に貢献し」「会社の発展と協力者の共栄をはかり」「感謝する人びととともに運営する」という文言があります。これこそが、今日のCSRに通じる精神です。この社是を中心にすえて、ムラタグループの役員および従業員が、良き企業人として社会への責任を果たし、ムラタの経営理念のもとに誠実かつ公正に行動していくことを宣言した「CSR憲章」を定めています。また、CS（価値の創造と提供）とES（やりがいと成長）を大事な価値観と定め、マルチステークホルダーへの責任と行動を貫徹します。CO₂削減や生物多様性への対応といった地球環境保護への取り組みや、紛争地域の鉱物資源問題などの喫緊のグローバルな課題、あ

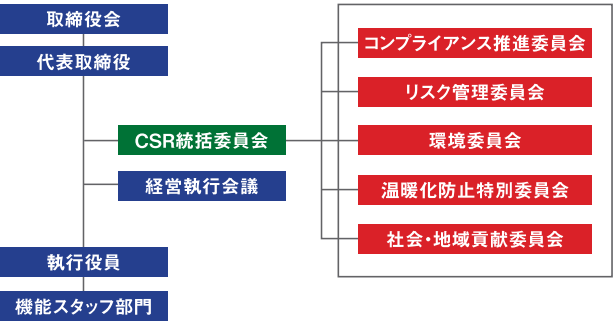
るいは今回の東日本大震災のような未曾有の大災害に対しても、ムラタは地域・社会の一員としての責任を果たしていきます。一方、事業活動においては、働くすべての人の安全と健康を経営の最優先課題と位置づけ、安全で快適な職場環境づくりと心身の健康の保持増進に全組織をあげて取り組んでいます。この一環として、労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得を進めています。このように、ムラタはこれからも社会から信頼される企業であり続けることを目指して、経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を組織して、さまざまな社会的要請に応えるという形で、整合性の取れた全社的なCSR経営を継続的かつ計画的に推進してまいります。

CSR憲章（概要）

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取り組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働くすべてのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

- **企業統治** 私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の透明性を高めていきます。
- **人権と労働** 私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳をもって対応します。
- **安全衛生** 私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理をおこなうことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上をはかります。
- **環境保全** 私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現をめざします。
- **公正取引・倫理** 私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準をめざします。
- **管理の仕組み** 私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善をはかります。

CSR関連委員会組織図



【報告対象範囲と情報開示体系】
本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握していただきやすくなるため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のホームページに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

【報告対象期間】
2010年4月1日～2011年3月31日
※一部、2010年3月以前、2011年4月以降の取り組みについても報告しています。

【報告対象組織】
村田製作所グループ（株式会社村田製作所および国内外の関係会社66社）

 このマークで示す項目はホームページでさらに詳しい情報を公開しています。

特集 「地球温暖化防止」

CO₂削減に向けた取り組み。それは、この地球上で生かされている、存在させてもらっている企業のそして私たち一人ひとりの責任です。



一層の省エネ、CO₂削減を目指して、究極のエネルギー効率を追い続ける。

株式会社村田製作所
執行役員
小島 祐一

設計・開発段階から製造工程にいたるまで、すべての“手と手”がつながった状態。それが“力”になる。

当社の製品は主にセラミックスをベースとしておりますが、セラミックスとは言わば「焼き物」です。ものづくりを行う際には焼成工程をはじめ、多くのエネルギーを使わざるをえません。よって、担当者一人ひとりがいかに省エネ/CO₂削減を身近なもの、自分のものとして捉えられるようになるかが重要なポイントとなります。当社ではかねてより生産革新活動を継続的に取り組んでおり、この革新活動の中に省エネ/CO₂削減も含まれることを製造や開発現場の人たちに示し、考え方の浸透を図っています。しかし、設備を設計・保全する生産設備部門、その設備を導入する製造部門、そして空調などインフラ面を担当する環境部門の連携が不十分では、各部門がいくら個々に省エネに取り組んだとしても、大きな効果を得ることはできません。省エネ効果を最大限に出し、CO₂排出の大幅削減につなげるため、

これらの部門に材料や商品開発部門を含めて手と手をつなげることで、私が副委員長を務める温暖化防止特別委員会に課せられた役割と考え、今後も取り組んでいきたいと思っています。すでに、空調熱源の排熱を生産に有効利用するなど、関係部門が協力しあって技術革新することで投入エネルギーを少なくし、無駄のない利用につなげている事例が出てきています。また、今回の震災で、エネルギーが現代社会の中でいかに必要不可欠なものであるのかということを再認識した人も多いのではないかと思います。資源には限りがある、故にその限りある資源をいかに有効に利用するか。課題は、ここに尽きます。そのためには、省エネへの挑戦を永続的にやり、ものづくりを行う上で究極のエネルギー効率を常に追いつけることが、私たち企業の責務と肝に銘じ、今後も手を緩めることなく活動を継続していきます。



空調の排熱を生産の熱源に。“手と手”を取り合って困難にチャレンジ。

写真左より
株式会社村田製作所 環境部 梅田 啓太
株式会社アズミ村田製作所 事務課 降旗 謙
株式会社アズミ村田製作所 生産技術課 小堀 証史
株式会社アズミ村田製作所 製造2課 竹内 文喜

取り組み成功の秘訣は、リスクを恐れず挑戦する風土、担当者たちのやりきる想い。

アズミ村田製作所では、携帯電話やノートPCなど電子機器から発生するノイズを除去するEMI除去フィルタを製造しています。当製品の世界シェアは35%を占めており、生産工程では印刷・乾燥などの製造技術に強みがあると自負しています。当事業所では、温暖化防止に向けた全社的な取り組みの中で、さらなる省エネ、CO₂削減が求められていました。そこで、排熱回収型ターボ冷水機を導入で空調エネルギーの効率化を図るだけでなく、ヒートポンプを利用して、乾燥工程に温風を供給するという取り組みにチャレンジしました。具体的には排熱によりつくられた温水をヒートポンプで効率よく昇温し、高温水で温風をつくるというものです。しかし、乾燥はきわめて繊細な工程で、プロセスの変更はリスクを伴う挑戦でした。乾燥機とヒートポンプの組み合わせは初の試みであり、温風温度や風量の安定性など課題が多くありました。しか

し、チャレンジ精神を発揮し、失敗しても必ず得るものがあるという強い想いから、挑戦することになりました。事業所の技術課、生産技術課、製造課、環境担当課、本社環境部が一丸となり、既存システムに固執することなく最適化を追い続けることで、無事やりきることができました。この取り組みの効果は大きく、2007年度比でCO₂排出量が2,600トン(事業所全体排出量の20%強に相当)、コストにして数千万円の削減につなげることができました。さらに、この施策により、新たなチャレンジの元となるアイデアが生まれています。今後も、常にCO₂排出量とコスト削減に向けた挑戦を続けていきたいと思っています。

「環境保全推進」

ムラタでは、開発・設計、生産プロセス、そしてあらゆる企業活動の場面で、環境との調和を目指し行動を続けています。

環境と安全衛生のために
従業員が率先して活動できる体制を構築。



無錫村田電子有限公司
管理部

左/ 陸穎婷
(Lu Yingting)
右/ 鄒 怡
(Zou Yi)

無錫村田電子有限公司では、環境と安全衛生を統一したEHS (Environment Health and Safety) マネジメント活動を行っていますが、他工場からの生産移管、さらには工場規模拡大のスピードが速く、当活動が浸透にくいという課題がありました。そこで、EHSを会社の重要事項と位置づけ、各部門にEHS専任者を配置し、部門自ら率先して活動を推進させています。また、近隣小学校への出前教育を行うなど、社内に留まることなくEHS活動を推進しています。

環境マネジメント

ムラタは、2009年度に国内全事業所および海外全生産拠点で、環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組み統合を完了。環境経営に関わる情報を共有し、効率的で実効性の高い環境活動の推進とガバナンスの強化を目指します。

有害化学物質が社内流入しないよう、
仕入先様と協力して、日々管理しています。



株式会社福井村田製作所
資材課

左/ 松田 亜弓
右/ 八木 英里香

私たちは、福井村田製作所にて国内外の仕入先様からの部資材調達業務を担当しています。部資材を購入する前には必ず化学物質の含有調査を実施することで、有害化学物質が含まれた部資材を発注しないよう日々管理しています。今後も、お客様のご要望にお応えできるよう、仕入先様と協力して、より環境負荷の少ない部資材をスピーディーに調達できるよう努めてまいります。

グリーン調達・グリーン購入

製品の環境負荷低減のためには、環境負荷の低い部資材を調達する「グリーン調達」が必要です。そこでムラタでは仕入先様に、環境経営を実践していただくよう理解と協力を求めています。

高エコロジー化の要求に
応えられる商品開発を。



株式会社イワミ村田製作所
技術課

小川 広江

環境配慮型製品が求められている昨今、省エネ、長寿命照明としてLED照明が急速に普及しています。LED照明では、搭載される電子部品にも小型・薄型化や長寿命化など高エコロジー化が要求されます。私たちの事業部では、従来品に比べて実使用時に高い静電容量が得られるセラミックコンデンサの開発に成功し、LED電球搭載部品として採用いただいております。今後も、環境に貢献できる商品開発に向けて、日々努力していきたいと思っています。

環境配慮設計

ムラタでは、部資材購入、設計・開発、生産、使用、リサイクル・廃棄の製品の全ライフサイクルにわたる環境負荷に配慮した製品づくりを行っています。

CO₂削減プロジェクトに
部門が団結してチャレンジ!



株式会社金沢村田製作所
第1製造部

田村 昭人

金沢村田製作所のCO₂削減プロジェクトでは、超高真空ポンプに使用しているクライオコンプレッサ(ヘリウムガス圧縮機)において、独自の改造に取り組み、大幅に消費電力を低減。さらに、関係部門との協同により計画から3カ月前倒しで完了できました。当取り組みによるCO₂削減量は年間363t-CO₂(事業所全体排出量の1%に相当)です。今後も、さらなるCO₂排出量削減につながる改善に取り組んでいきたいと思っています。

地球温暖化防止

ムラタでは、事業活動で排出される温室効果ガスの総量削減に向けて温暖化防止方針を掲げ、目標達成のため温暖化防止特別委員会を中心に、ムラタグループ全体で活動を行っています。

近隣事業所と連携しながら、
廃棄物削減に向けた新たな取り組みを開始!



株式会社小松村田製作所
管理部

松田 寛治

小松村田製作所では、廃棄物の排出量および処理費用の削減に向けて、積極的な取り組みを行っています。例えば、廃プラスチック類は軽量かつ容積が大きいため収集運搬費を補うほどの量が確保できず、これまで売却を断念していました。しかし、グループ内の近隣事業所と連携し積み合わせを行うことで、量が確保でき、有価物化を実現することができました。今後も近隣事業所との連携を視野に廃棄物削減に取り組んでいきたいと思っています。

廃棄物の削減

ムラタでは、2003年度にゼロエミッションを国内グループで達成しました。現在は、海外でのゼロエミッションと、廃棄物発生量そのものの削減に取り組んでいます。

環境に配慮した原料容器開発により、
物流CO₂削減に大きく寄与。



株式会社村田製作所
原料製造部

石坂 武彦

ムラタでは、セラミックスなどの原料容器をリユース化していますが、既存容器を運搬する際、トラック50台/月分のスペースを占有していました。そこで、返却運搬時のトラック占有スペース65%以上の削減を目標に、環境に配慮した積み重ね型容器開発に取り組み、68%の削減を達成できる見込みです。このノウハウをセラミックス原料以外の容器にも水平展開することで、さらなる物流CO₂削減に寄与できればと思います。

環境配慮型物流・包装の推進

製造段階だけでなく、製品を輸送する物流段階においても環境負荷削減に取り組んでいます。輸送の効率化でCO₂を削減するとともに、包装材を削減して廃棄物を減らしています。

地元の方々に想いが伝わる活動を通して
ムラタの環境保全への理解を。



株式会社鯖江村田製作所
事務課

藪内 美智子

鯖江村田製作所では、地域の方々に当社の環境への取り組みをご理解いただくために「手づくり」を特徴とした様々な活動を行っています。例えば、当社で排出された生ゴミからつくった堆肥の配布や、季節を感じていただくために四季のプランターや門松を設置するなど、地元の方々に想いが伝わる活動を推進しています。また、行政のイベントへの参加や小学校への出前環境教育を通して地元とのつながりを深めていけるよう努めています。

環境リスクコミュニケーション

ムラタでは、事業活動が地域社会に及ぼすリスクの最小化と問題発生時の迅速な対応に努めるとともに、ムラタの環境保全活動について地域の方々にご理解いただくため、会社見学会を開催するなどの情報公開にも努めています。

いろいろな生き物と共存する
事業活動を目指して。



穴水電子工業株式会社
事務課

写真左より
宮地 寿夫
池下 ひろみ
濱 恒松
松本 賢治

穴水電子工業では、事業活動にともなう生態系への影響を把握し、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。当社が所在する地域に生息している県指定の天然記念樹木である藤やつつじの保護活動を行うほか、近隣の里山保全活動にも積極的に取り組んでいます。また、従業員の生物多様性に関する意識向上を目的とした社内報を定期的に発行するなど、啓発活動にも努めています。

生物多様性の保全

ムラタでは、事業活動と生物多様性の関わりを考え、以前より生態系の保全や再生活動に力を入れてきました。2011年1月には環境方針の中に生物多様性の保全に関する行動指針を追記し、これらの活動をさらに加速するとともに、従業員の生物多様性保全の重要性に関する意識向上にも努めています。

[従業員への責任と行動]

女性のための支援制度や国際的な人事交流など、
多様な人の多彩な働き方のための仕組みを整えています。

- 人権の尊重
- 人材育成
- 雇用の機会均等と職場の多様性
- 働きやすい環境づくり
- 従業員の知的財産権
- 従業員の安全と健康(労働安全衛生)



女性が輝く 職場づくりのために。

株式会社村田製作所
パワーモジュール商品事業部
伊崎 京子

制度が充実しているからこそ、
感謝の気持ちを忘れずにいたい。

私には子どもが2人いますが、それぞれの出産の際、産休・育休を取得しました。1回目のときは、初めての子どもができたのが嬉しくて、何も考えずに休職を申請したのですが、2回目のときは、少し迷いました。制度があるとはいっても、やはり職場に迷惑をかけているのではないかと。それなのに平気な顔をして復職していいのだろうか、と考えてしまったんです。当時の上司にメールで相談したところ、「2人目でも3人目でも、戻ってきてください」「ビジネスと母親・妻としての役割、うまく調整できる女性は素敵です」というような返信をいただきました。それで、安心して休むことができたのです。制度を利用することはできますが、その裏側では、だれかが無言でサポートしてくれています。両立支援や福利厚生の制度は、これから充実していくでしょうが、そうであればなおさらのこと、周囲に対する感謝の気持ちは大切です。私も、自分ができるときにはサポートする側に回りたいと思っています。

Comment

伊崎さんは、時間の使い方が上手です。現在も、短時間勤務制度を利用しながら家庭と仕事を見事に両立されています。業務時間の中では凝縮して仕事をこなしていて、そのはつらつとした仕事ぶりは、周囲にもいい影響を与えてくれています。

株式会社村田製作所 パワーモジュール商品事業部
写真左 高井 正司

ムラタはものづくりをする会社ですが、もっと突き詰めていえば、人づくりもしている会社だと思っています。価値観が多様化する中で、いろんな条件、いろんな立場の人が、それぞれの働き方を実践することが重要です。伊崎さんの働き方は、そのモデルのひとつだと思います。

株式会社村田製作所 パワーモジュール商品事業部
写真右 工藤 仁

グローバルローテーションで 国際的な人材育成を。

株式会社村田製作所
生産本部 生産システム部
呉志明 (Wu Zhiming)

深く定着して習慣化された日本のものづくりの意識。
中国で、それを育てていきたい。

母国の大学では、外国語学部に所属して日本語を勉強していました。外国と関わる仕事をしたいという思いから、母校の先輩に就職先を相談したところ、無錫村田電子を紹介されました。無錫ムラタでは、まず設備関係の仕事に、後には現場改善の仕事に携わりました。無錫市にはムラタのほかにもさまざまな日系企業が立地しており、市の経済を力強く牽引しています。その強さの秘密はどこにあるのか、徹底的に究明しようと、日本への出向を志願しました。

日本では、約1年間出雲ムラタで生産革新活動を担当してきました。生産革新活動とは、ものづくりのレベルを大きく引き上げて、強い競争力につなげること。受注からお客様に納入するまでのサプライチェーン全体のプロセスに視野を広げ、プロセス全体として物と情報の淀みない流れをつくる。そして、従来の限界・

常識を打破して無駄を徹底的に排除し、それを継続して取り組むことが柱となります。無錫ムラタでも、同じセオリーで生産革新活動を推進していますが、日本の工場と海外拠点とではギャップがあります。何が違うのか？ 私は、そこには日本のスタッフが自然に身につけている“習慣”の力があると思います。人間は、95%は習慣で行動しているそうですが、無錫ムラタのものづくりが日本の工場と同じレベルになるには、細かいことを積み上げて、それが習慣になるまで継続していかなければなりません。それは、日本のコピーをつくることとは違います。無錫ムラタのメンバーに、生産革新活動の目的とやり方を伝え、「ムラタのものづくり力」を実現してさらに力を発揮していくこと。それが、これからの私の仕事になります。

[社会・地域への責任と行動]

教育、文化、スポーツなど、ムラタが展開している
社会・地域貢献の一端をご紹介します。



誰かのためになりたい、
そんな気持ちが集まって。

写真左より
株式会社出雲村田製作所
管理部
日野 利一 / 金田 忠士 / 山本 めぐみ / 田井 薫
若槻 あや / 勝部 保 / 勝部 透 / 大原 安典

喜んでもらえると、嬉しい。
そんな素直な気持ちで活動を展開。

出雲村田製作所では、事業所を開設した1984年当時から「森の中の工場づくり」のスローガンを掲げ、桜と椿の植栽を続けてきました。1994年からは、一般公開を開始。小学生を対象に、ムラタオリジナルの自転車型ロボット「ムラタセイサク君®」と一輪車型ロボット「ムラタセイコちゃん®」が登場する科学学習や環境学習もあわせて開催しています。これらの活動を、私たちは「地域貢献」というよりも「地域交流」と位置づけています。貢献できているかどうかは、相手を感じてくれること、私たちは地域のみなさまと交流したい一心でやっています。だから、来場されたお客様には、私たちスタッフの方から積極的に声をかけます。そのために、みんな桜や椿のことを勉強しています。スタッフは社員のボランティアですが、年々参加者が増え、今では200人以上。来場されたお客様の「楽しか

った」「出雲ムラタはがんばってるね」という声が伝わってきます。喜んでもらえると、嬉しい。これは、人間としての素直な感情ではないでしょうか。地域・社会の方々に受け入れてもらうと同時に、出雲村田製作所の一員でよかったと思えるように、さらに充実した活動にしていこうと張り切っています。



椿と桜の一般公開の様子。

世界に「理科好き」を広げよう!
セイサク君、セイコちゃん、海外出張へ。

このたび、ムラタセイサク君®とムラタセイコちゃん®を連れて、マレーシアのMurata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.の近隣にある高校、大学、ショッピングモールなどを訪問しました。地域の方々にムラタの技術を理解していただくとともに、理科や科学の面白さを感じていただくため、約1週間かけてこのイベントを実施しました。小学生、高校生、大学生、ビジネスマン、そのほか大勢の方々に参加いただき、楽しんでいただくことができました。Malaysia Technology Expo 2011では、Innovation & Innovation シルバー賞を頂くなど高く評価されました。グローバルに展開しているムラタの拠点を中心に、セイサク君、セイコちゃんは今後も様々な国や地域で理科や科学の面白さを伝えていきます。



大勢の方に見守られながら走るセイサク君。

東日本大震災への支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災による被災者の救済および被災地の復興支援のため、村田製作所では日本赤十字社を通じて、1億円を寄付いたしました。また、震災発生翌週からは、被災した宮城県の工場への支援とあわせて、地元に対し、食料品や日用品などの生活必需品を提供し、被災者の生活支援に役立ててもらいました。さらに、国内外のムラタグループ各拠点では、従業員および各種イベントを通じての募金活動が展開されました。海外の拠点では、集まった寄付金と同額を会社側が上乘せするマッチングギフトも実施しました。これらの募金で、各国の赤十字社や日本領事館などを通じて被災者のための寄付や、被災した従業員への支援を行いました。



撮影者/Mr. Anestis Aslanidis 提供元/Nürnberger Zeitung (ドイツ)



(タイ)

[仕入先様への責任と行動]

ムラタが購買において法令を遵守するのは当然のこと。

仕入先様にも法令遵守と社会・環境への配慮を要請し共存共栄を目指します。

- 購買の基本的な考え方
- 購買に関する法令遵守
- 仕入先様のための相談窓口
- CSR調達の推進

Web



公平・公正かつ 誠実な購買を推進しています。

株式会社登米村田製作所
管理部
杉本 梨江

フェアな取引のための教育活動を通して、
仕入先様との信頼関係を築く。

公平で公正な購買を実現するためには、法令遵守が欠かせません。特に重要なのは下請法*の規定です。でも、法律の文章というのはそもそも分かりにくく、大事だとは思っていても、積極的に読んで理解しようとする人は少ないのではないのでしょうか。その結果、認識不足により、悪気はなくても違法行為になってしまう、ということも起こりかねません。そこで必要になるのが、従業員教育です。また、仕入先様にも私たちと認識を共有していただくために、情報提供が欠かせません。昨年9月に、本社資材部による業務診断が行われ、仕入先様からの見積書に記載いただく項目など、いくつかの問題点がピックアップされました。それをもとに購買ルールの見直しを行い、さらに教育活動を推進しているところです。購買業務そのものはムラタ共通の「購買システム」によって管理されていますから、システム上で業務が遂行されている限りは法令違反を未然に防ぐこと

ができます。けれども、それに頼り切ることなく私たち自身の意識を高めていくことも重要だと思っています。法律の文章は分かりにくくても、具体的な事例があれば理解は深まります。そこで、Q&A資料集を用意するなど、教育活動に工夫を凝らしています。でも、実は私自身も分からないことがたくさん。要求元や仕入先様から問い合わせをいただいて、それにお答えするために調べて勉強する毎日です。そのおかげで、日々成長していくことができると実感しています。このような活動を通じて、仕入先様とムラタとのあいだに、より強固な信頼関係を築いていくこと。それが、私の大きな目標です。

※下請法
「下請代金支払遅延等防止法」の略称。
親事業者（発注者）が有利な立場を利用して、下請事業者の正当な利益を阻害することを防止する法律。

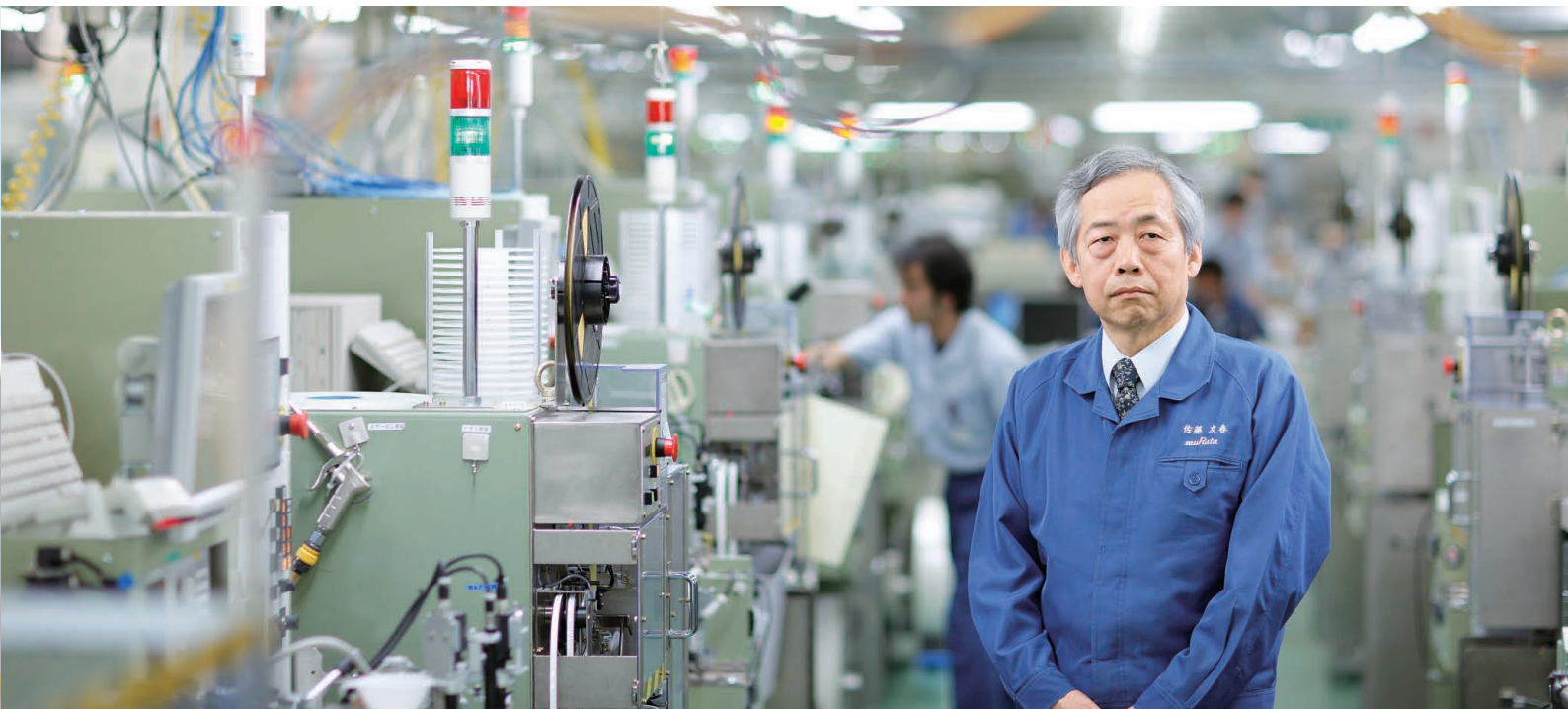
[リスクマネジメント]

万が一の事故や災害。まず第一に守るべきは人命です。

その次に大切なのは、「事業の継続性」です。

- コーポレート・ガバナンス体制の強化
- 内部統制システムの整備
- 企業倫理規範・行動指針
- コンプライアンスの推進
- 全社的なリスクについての取り組み
- リスクマネジメント

Web



事業継続は、社会的責任を果たすこと、 その意志を伝えるメッセージ。

株式会社登米村田製作所
取締役 工場長
佐藤 友春

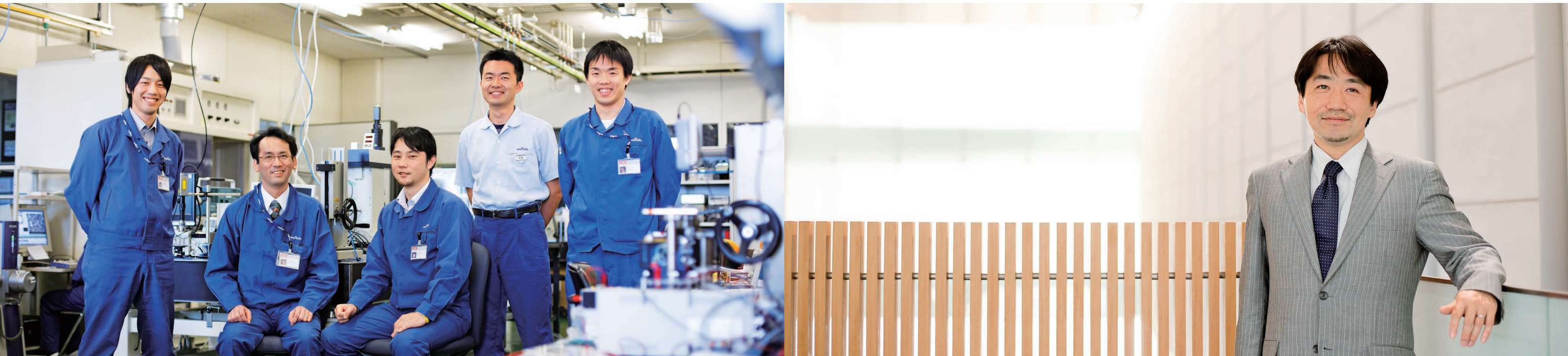
登米村田製作所の地震対策。
事前の対策が被害の低減に。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、最大震度7を計測した宮城県栗原市に隣接する登米市に登米村田製作所があります。登米市では最大震度6強を計測し、現地の工場も操業を停止しました。ムラタでは、1995年の阪神淡路大震災と2007年の能登半島地震の経験をふまえ、震度6強を想定した社内での耐震基準を設定し、2007年に国内全拠点の建物・施設に、耐震対策工事を実施しました。今回の地震では、登米村田製作所の建物・施設への深刻なダメージはなく、生産活動に不可欠なユーティリティ設備や配管・配線類への被害を最小限に抑えることができました。また、生産設備についても、社内の耐震基準による耐震固定をしており、大きな損傷から逃れることができました。さらに、地震から従業員の生命身体を守るため、2008年に地震速報システムを導入

し、同システムを活用した定期的な訓練を実施していました。地震発生当日、同システムが作動し、揺れの始まる5秒前に警告を館内放送できたため、従業員は冷静に避難行動をとることができました。震災後、ライフラインの寸断などの困難を極める中、協力工事業者のみなさまや現地の従業員・本社からの支援スタッフが一丸となって復旧活動を行い、3月下旬から生産活動を一部再開することができました。また、本社から緊急支援物資として現地に輸送した物資は、登米市から地元の方々に提供していただきました。ムラタでは大地震を想定した諸施策を従来から実施してきましたが、今回の震災の教訓を踏まえ、今後も事業の継続をより強固にする対策を実施していきます。

特集 「新規事業とCSR」

新エネルギーや健康分野など
社会に貢献できる事業領域の創出につとめています。



小さなエネルギーの大きな可能性、 エネルギーハーベストへの挑戦。

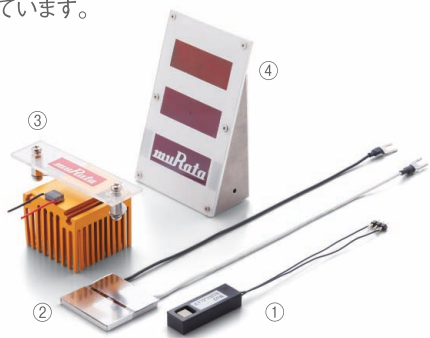
写真左より
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 商品開発統括部
高橋 講平
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 MIRAIプロジェクト課
中寺 和哉
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 商品開発統括部
和田 好史
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 次世代技術研究所研究部
舟橋 修一
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 商品開発統括部
坂口 仁志

新しい未来を創り出そう！
意志を持ったメンバーが集まったプロジェクト。

「エネルギーハーベスト」とは、振動や熱などの身の回りのわずかなエネルギーを回収して発電する技術です。今、わたしたちMIRAIプロジェクトでは4種類のデバイスを開発中です。1つ目は圧電体を使った振動を電気に変換するデバイス。2つ目は、エレクトレット材料を使って振動を電気に変換するデバイス。3つ目は、ムラタの積層技術を応用した熱電変換素子。4つ目は、室内光でも効率よく発電できる光電池です。わたしたちの身の回りにあるエネルギーは小さく、エネルギーハーベストで得られる電力は、1ミリワットにもなりませんが、エネルギーを上手にマネジメントして使うことによって、電線も電池も使わずに機器を動作させることができます。当面のターゲットはワイヤレスセンサネットワークですが、アイデア次第でいろんな可能性が広がる技術だと考えています。

MIRAIプロジェクトは、自分の持っている技術を実用化するだけでなく、技術を通して事業に、そして社会に貢献したいと考えている人たちが組織の垣根を越えて自発的に集まってできたプロジェクトです。わたしたちがエネルギーハーベストで扱うエネルギーはとても小さいものですが、新しいエネルギーを世の中に提供したいという大きな夢を持って活動しています。

①圧電変換モジュール
②振動発電モジュール
③熱電変換モジュール
④光変換モジュール



健康に寄与するエレクトロニクスをめざして、 ムラタの固有技術をヘルスケア市場へ。

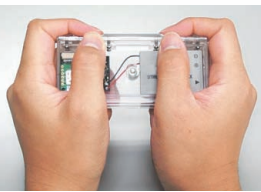
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部
新規事業推進統括部
家邊 徹

「いつでもどこでも」がキーワード。
新しい健康文化を展望する。

ムラタのセンシング技術と無線通信技術を、何か新しい分野に展開できないか。そのようなリサーチから浮かび上がってきたのが、ヘルスケアという市場。フィットネスゲームなどの健康を志向した家電や、家庭で健康管理を行う機器などを中心とした分野です。普通の人がいいつでもどこでも気軽に健康チェックやケアができるようになれば、人々の健康を通して社会に貢献することができます。バイタルサインセンサは、まさにそのようなコンセプトで開発されたものです。右手と左手の人差し指でセンサに触れるだけで、心電と光電脈波ふたつの方式で、心臓の拍動によって生じる微弱な電圧変化や血中ヘモグロビン量変化を検出して、脈拍数、血中酸素状態などを計測することができます。このセンサにBluetooth® Low Energyなどの低消費電力無線を組み合わせることで、測定結果をネットワーク経由でサーバーに記録して専門家によるアドバイスを受けたり、スマー

トフォンでいつでもどこでもチェックするなど、新しいヘルスケアサービスを創出することができます。計測データに基づき「お疲れ度」や「緊張度」「興奮度」などを推定し、心と体の健康状態に新たな指標を与えることで、人々がお互いにいたわり合うような、コミュニケーションツールへと進化していくことも可能かもしれません。

バイタルサインセンサ



バイタルサインセンサデモキット。
人差し指でセンサに触れて生体
信号(脈拍数など)を計測。



[CSR活動における目標と実績]

ムラタでは、重点取り組みテーマを設定し、
各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

■ 第4次環境行動計画に対する2010年度の実績

○: 達成
△: ほぼ達成
×: 未達成

	項目	2010年度目標	2010年度実績	評価
環境経営	環境マネジメントシステムの充実	・ISO14001の仕組みをムラタグループ全社で共有し、連結した運用を確立する。 ・海外での環境コストマネジメント結果の公表を開始する。	・第5次環境行動計画を策定した。 ・Murata (China) Investment Co., Ltd.でのISO14001認証取得に向け、組織化を完了した。 ・環境コスト集計の新ルールを策定し、効率化を進めた。	○
	環境適合設計	ライフサイクル全体の環境負荷低減を考慮したもののづくりの仕組みを構築する。	・ライフサイクル思考に基づいた製品環境配慮設計の指針となるRoHS指令、REACH指令、ErP指令、EPEAT基準、カーボンフットプリントなどを参考に製品アセスメントガイドを更新した。 ・2010年のエコプロダクツを選定、公開した。	○
	製品に含まれる環境負荷物質の削減	・欧州RoHS適用除外品の代替物質の採用または代替技術への転換を進める。 ・欧州RoHSの適用除外リストの改定に対応する。	改定された2013年からの禁止用途*に対応し、以下の活動を実施し、対応を進めた。 -商品部門向けWG活動を通し、法令動向の共有化 -商品部協働により改定規制該当製品の方針を決定 -主管機能スタッフによる規制対応活動の開始 -技術基準の改定に追加 *低定格電圧の誘電体セラミック中の鉛の規制が先行し、2013年1月から禁止	○
			販売製品で2007年度比5.6%削減。 当初計画時にはPVCの全廃を目標としていたが、想定した法規制はなされず、一部の顧客規制のみであった。このため、代替困難用途(車載、被覆電線)を禁止から削減とし、活動を進めた。	○
		PVC(ポリ塩化ビニル)の使用量を削減する。		○
		臭素系難燃剤の使用量を以下の通り削減する。 ①ハロゲン系難燃剤使用量を2006年度比で4%削減する。 ②ハロゲン系難燃剤使用量が2006年度比で50%削減可能となる代替技術を確認する。	当初計画時に、想定した法規制はなされず、一部顧客規制のみであり、継続的に削減に取り組み、活動した。 -使用量は、2010年度に2006年度比14.7%削減を見込んでいる。 -ハロゲン系難燃剤使用量が2006年度比で50%削減を可能とする代替技術を確認した。	○
	環境負荷化学物質に関する情報管理	・e-ビジネスで要求される情報提供ツールと製品データベースを連携させ、タイムリーな情報提供を実現する。 ・e-ビジネスとの連携を強化する。	・新たな化学物質管理の総合データベースシステム(Tri-Eシステム)を構築し、お客様への製品含有化学物質情報の提供(2011年1月稼働)、および欧州法令REACH規則対応であるEU当局向け情報提供(2011年3月導入)を開始した。 ・社外向け公開データベース(JAMP-GP)への登録を開始した。当社製品の公開品番の全品番(14000品番)について、成分情報を2011年度中に登録完了見込みである。	○
	包装材料削減・物流省エネルギー	チップ積層セラミックコンデンサ・チップフェライトビーズの国内テーピング生産数原単位で50%以上削減する。(2000年度比)	2000年度比48%削減。 製品の小型化が進み、2010年度第四半期には51%削減と目標を達成したが、2010年度通期では48%削減にとどまった。	△
		国内の物流CO2排出量を実質生産高原単位で38%以上削減する。(2000年度比)	2000年度比55%削減。 トラックの積載率向上と総走行距離の削減に取り組んだ結果、目標を大幅にクリアすることができた。	○
	グリーン調達	国内・海外拠点国の法規制に対応した資材グリーン度調査を継続推進し、生産用途部資材のグリーン調達率100%を維持する。	調査書の回収に時間がかかっているものがあるが、生産用途部資材のグリーン調達率は100%を維持している。	○
		国内のCO2排出量を実質生産高原単位で35%以上削減する。(1990年度比)	1990年度比62%削減。 全社をあげた省エネ取り組み強化により目標を達成した。 高操業度による生産効率向上や電力会社の排出係数改善も影響している。	○
		海外生産拠点においてCO2総排出量を削減する。	2007年度比8,400トン/年削減。 各省エネ施策の継続実施により目標を達成した。	○
環境に配慮した製品の供給	地球温暖化防止	国内の社有車を100%低公害車に切り替える。	社有車低公害車93%を維持。 各事業所の構内で使用しているトラック、バンなどの置き換えが未達成であるが、5年以内に置き換え完了見込みである。	△
		国内の廃棄物総排出量を実質生産高原単位で55%以上削減する。(2000年度比)	2000年度比37%削減。 急激な生産増にともない目標達成にいたらなかったが、2011年度以降の大幅な排出量削減の実現に向けた検討を行い、施策に着手している。	×
		海外生産拠点において廃棄物総排出量を実質生産高原単位で2006年度比10%以上削減する。	2006年度比36%削減。 海外でも廃棄物の削減に積極的に取り組むことで、2006年度比で絶対量でも削減することができた。	○
	省資源と廃棄物のリデュース・リユース・リサイクル	海外生産拠点において廃棄物ゼロエミッションを達成する。	北京、無錫、台湾、タイ、深圳の5拠点でゼロエミッションを達成した。	△
		国内の水使用量を実質生産高原単位で55%以上削減する。(2000年度比)	2000年度比54%削減。 前年度比で原単位は21%改善しており、一定の成果が得られている。	△
		国内の揮発性有機溶剤(VOC)大気排出量を30%以上削減する。(2000年度比)	2000年度比25%増加。 VOC削減については、テーマ設定以前よりRTO設置などの対策を実施しており、大気排出量削減という点では、一定の成果が得られている。	×
	生産工程で使用する環境負荷化学物質の管理と削減	国内のPFC類大気排出量を60%以上削減する。(2002年度比)	2002年度比62%削減。 代替品の切り替えが順調に進んでいることより目標を達成することができた。	○
		土壌・地下水汚染の浄化を継続し、環境リスクを可能な限り低減する体制を維持する。	浄化促進策を実施した事業所で、対策の効果を確認した。	○
	リスク管理	土地の形質変更にもともなう工事を実施する際の土壌汚染など環境リスクを低減する。	対象工事において土壌調査を実施した。	○
		情報開示を継続的に推進し、ムラタの立地する地域、社会に密着した事業経営を実現する。	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、Murata Reportなどの発行や近隣住民の方々への事業所見学会の開催などを通じた継続的な情報開示に努めた。	○
社会的活動	社会・地域貢献活動	社会・地域貢献、事業所緑化を継続的に推進し、ムラタの立地する地域・社会に密着した事業経営を実現する。	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森活動と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施した。	○

※「第4次環境行動計画」は、2010年度に計画年度終了となり、新たに2015年度までの中期目標として「第5次環境行動計画」を策定しております。
内容につきましては、WEBサイトに掲載しておりますので、そちらをご参照ください。

■ 2010年度の社会性目標に対する実績と2011年度の目標

項目	2010年度目標	2010年度実績	評価	2011年度目標
内部統制システムの整備推進	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進する。	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進しており、前年度からさらに整備対象範囲を拡大している。また、コンプライアンスや業務の有効性・効率性を目的とした内部統制整備にも継続して取り組んでいる。	○	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進する。
	業務の適正性を確保するためのモニタリング機能を充実させ、コーポレート・ガバナンス体制における透明性と実効性を向上させる。	国内外のモニタリング対象グループ会社を順次拡大するとともに、リスクアプローチにより重点項目を独立した内部監査部門が評価・モニタリングすることで、透明性と実効性を向上させている。	○	業務の適正性を確保するためのモニタリング機能を充実させ、コーポレート・ガバナンス体制における透明性と実効性を向上させる。
コンプライアンスの推進	内部統制の有効性を確保・継続しつつ、重複・無駄を排除する。グループ横断的な視点からコンプライアンス体制を再構築し、運営の合理化を図る。 ①コンプライアンスアンケート、行動指針確認テストの実施。 ②通報制度の利用実績の社内公表。 ③コンプライアンスプログラム説明用テキストの作成・配布、活用徹底。	①コンプライアンスアンケート及び行動指針確認テストを実施した。 ②当社及び国内関係会社において、通報制度の利用実績の社内公表を実施した。 ③テキストを作成し、国内の事業所において、コンプライアンス推進リーダー主催の勉強会の教材として活用した。	○	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンスアンケート、行動指針確認テストの継続。 ②コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。 ③コンプライアンス推進強化月間の定着。
リスクマネジメントの強化	事業リスクを抽出し、分析・評価、対策の立案・実施、モニタリング、改善のマネジメントサイクルを有効に機能させる。 リスク管理委員会において、情報セキュリティや地震・新型インフルエンザBCP(事業継続計画)などの重要テーマについて、リスク対策を継続する。	主要なリスク項目について対策の実施状況を確認し、継続的な改善を進めた。 また、東日本大震災の対応を全社レベルで行うとともに、これまでの災害対策の見直しを行った。	○	全社的な事業リスクについて、対応を強化すべきリスクの検討を継続するとともに、各リスク担当部門のリスク対応状況の継続的なフォローを行い、リスクマネジメント活動の強化を図る。 東日本大震災での教訓をふまえ、災害時の緊急事態対応や建物・生産設備の耐震化などの対策の有効性の再評価を行い、危機管理体制全般の強化を図る。
社会・地域への責任と行動	重点分野を中心とした社会・地域貢献活動の推進。	各事業所で実施している小中学生を対象とした理科教育、電子工作教室、工場見学などを昨年度より増加させた。	○	小中学生を対象とした理科教育を通じ、未来を担う人材(イノベーター)の育成支援を行う。
	従業員のアイデアや参画を重視した貢献活動の取り組み強化。	各事業所で実施している事業所開放イベント及び小学校訪問において、多くの従業員がボランティアとして参画。	○	近隣社会に根ざした地域貢献活動を積極的に行う。
仕入先様への責任と行動	【国内】 CSRを資材部教育項目表に入れ、年1回社内教育と理解度確認テストを実施。 【海外】 海外拠点用の教育テキストとテストを整備する。 全ムラタグループを対象に、コンプライアンスに関する社内研修会および業務診断を実施。	【国内】 ・国内全購買担当者に対し、CSR調達に関する理解度確認テストの実施完了。 ・購買2拠点に対し、適法性強化の業務診断を実施。 ・購買関係部門に対し、適法性強化の為の研修会を計9回実施。(約140名参加) 【海外】 ・海外購買拠点向けCSR調達教育テキスト及びテストの整備完了。 ・仕入金額が大きい海外購買1拠点に対し、CSR調達に関する社内研修会及び理解度確認テストの実施完了。	○	国内外全ての購買担当者に対して、コンプライアンス、CSR調達に関する理解度確認テストを実施。
		【国内】 回収率90%以上のCSR合意書取り交わし。 【海外】 仕入金額が大きいパイロット拠点から、回収率80%のCSR合意書取り交わし。 CSR合意書の取り交わし手続(運用ルール)の策定。	○	海外全資材拠点にて、仕入先からのCSR合意書取り寄せの取り組み開始。
		【国内】 ・社内公募を1件実施、9人異動。 ・若手社員のうち人事異動がなされていない100人を対象に人事部門が個人面談を実施した。今後のキャリア形成について考えを聞き、次の異動に際して活かしていく。 ・外国人出向者の受け入れ推進:2011年度:20人	○	・適性に応じたキャリアを選択できる制度を引き続き実行。 ・社内公募制度の拡大展開。 ・新卒入社2年目社員の配属適性調査とフォローアップの実施。 ・新卒入社4年目社員の自己申告制度、キャリア形成プログラムの実施。 ・外国人出向者の受け入れ推進:2011年度:20人
従業員への責任と行動	ハラスメント防止のための啓蒙・教育の推進。(2010年度 研修会の実施10件)	本社・東京支社・各事業所あわせて計23回開催。	○	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 ・セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して研修を実施する。2011年度:5回実施
	ダイバーシティと自律に対応した福利厚生制度策定。	自律支援・健康支援・両立支援の3分野を対象とした選択型福利厚生制度を策定し、2011年度の導入を決定した。	○	ダイバーシティと自律に対応した福利厚生制度の導入・定着化。
	総労働時間短縮に向けた施策の推進、多様な働き方の推進。	MIP制(新たな企画業務型および専門業務型裁量労働制度)を導入した。 ・2011年3月時点の適用者数:225人	○	職種や顧客などに応じた多様な働き方の推進支援。
	仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。	次世代法に基づく一般事業主行動計画を実行した。 ・「仕事と家庭の両立支援ハンドブック」の作成。 ・社員の子女を対象としたお仕事体験イベントの開催。	○	仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。
	新入社員を対象とした模擬生産実習の実施。	新入社員対象の工場実習実施。 期間:6カ月 対象:60人 模擬生産研修の実施	○	グローバル人材の育成を含むものづくり教育の推進。
	マネジメント力の向上に向けた研修の実施とそのPDCAの実施。	マネジメント力向上の集合研修(Murata Management Basic)を実施、そのフォローアップの実施。 対象:285人、フォローアップ:47人 フェイズを5段階に分けて、フォローアップのスキルの定着のPDCAを回した。	○	マネジメント力の向上に向けた研修の実施とそのPDCAの実施。
	労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得。(本社について)	2010年12月に本社が労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS)の認証を取得した。	○	国内10事業所を対象に労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証取得を進める。 緊急時に従業員およびその家族の安否をタイムリーに把握できる体制を強化する。

○: 達成
△: ほぼ達成
×: 未達成

ムラタのCSRに寄せて

ムラタの製品は、自動車、AV、通信、家電、その他、我々の身近な製品に欠かせない重要なものばかりです。そのために、製品供給責任は、ムラタにとってCSRの重要な課題です。村田製作所グループでは、宮城県登米市、宮城県仙台市、栃木県小山市の3事業所が東日本大震災により被災しました。例えば宮城県登米市の事業所では、震度6強の地震により操業が停止しました。しかし、阪神淡路大震災と能登半島地震の経験をふまえて、国内全拠点の建物・施設の耐震化、BCP（事業継続計画）の作成・維持、地震速報システムの導入などの対策が実施されていたことにより、従業員の人的被害を最小限に抑えることができました。これは、企業の重要な社会的責任を果たされたことと高く評価できます。

ムラタでは、2010年から会社案内、CSRレポート、アニュアルレポートの一部を統合した「Murata Report」を発行しています。CSRの世界的な潮流として、アニュアルレポートの中で、環境や社会に関するKPI（Key Performance Indicator:主要業績指標）を開示する動向があります。これを機会に、アニュアルレポートでCSR関係のKPIを開示されることを検討されることをお勧めします。また、国際面ではISO26000への対応も重要になります。これはガイダンス指針ですが、ISO26000をベースに社内の活動を見直されることは、海外売上高が約85%にも達するムラタにとって、国際的なレピュテーションをさらに高めるために重要なことと思います。

情報開示については、webで詳細な情報を開示され、報告書はさまざまな社員の声を中心に編集されていますが、報告書においても、社員の声と全社的な活動の内容をバランスよく開示されることをお勧めします。会社全体の中で、それぞれの社員がどのように活躍しているのかというポイントがより明確に伝わると思います。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏

国内外拠点一覧

[国内拠点一覧]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所	
本 社	株式会社村田製作所
支 社	東京支社
事 業 所	横浜事業所／野洲事業所／八日市事業所／長岡事業所
営 業 所	仙台営業所／水戸出張所 東日本営業部／首都圏営業1部・2部（東京支社内） 首都圏営業1部西東京営業所 長野営業所（株式会社アズミ村田製作所内）／静岡営業所 中部日本営業部・首都圏営業2部（名古屋営業所内） 西日本営業部（本社内） 神戸営業所／岡山営業所／九州営業所

[海外拠点一覧]

North & South America 南北アメリカ	
U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc. SyChip, L.L.C.
	Murata Power Solutions, Inc.
Canada	Murata Power Solutions(Toronto) ULC Murata Power Solutions(Canada) ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda.

Europe ヨーロッパ	
Netherland	Murata Electronics Europe B.V. Murata Electronics(Netherlands) B.V.
Finland	Murata Electronics Europe B.V. Helsinki Office
Spain	Murata Electronics(Netherlands) B.V. Barcelona Office
Sweden	Murata Electronics(Netherlands) B.V. Stockholm Office
Germany	Murata Elektronik GmbH
Hungary	Murata Elektronik GmbH Budapest Office
U.K.	Murata Electronics(UK) Limited Murata Power Solutions(Milton Keynes) Limited Murata Power Solutions(Celab) Limited Celab Power Management Limited NCL Holdings Limited
France	Murata Electronique SAS
Italy	Murata Elettronica S.p.A.

国内関係会社	
株式会社福井村田製作所	株式会社アズミ村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社ワクラ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社登米村田製作所
株式会社小松村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社金沢村田製作所	アスワ電子工業株式会社
株式会社岡山村田製作所	穴水電子工業株式会社
株式会社金津村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社鯖江村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社イワミ村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社ハクイ村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社氷見村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社

Asia アジア	
China	村田(中国)投資有限公司 (Murata(China) Investment Co., Ltd.) 北京村田電子有限公司 (Beijing Murata Electronics Co., Ltd.) 無錫村田電子有限公司 (Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.) 深圳村田科技有限公司 (Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.) 村田電子貿易(天津)有限公司 (Murata Electronics Trading(Tianjin) Co., Ltd.) 村田電子貿易(上海) 有限公司 (Murata Electronics Trading(Shanghai) Co., Ltd.) 村田電子貿易(深圳) 有限公司 (Murata Electronics Trading(Shenzhen) Co., Ltd.) 賽芯電子技術(上海)有限公司 (SyChip Electronic Technology(Shanghai) Ltd.) 村田电源技术(上海)有限公司 (Murata Power Solutions(Shanghai) Co., Ltd.) 广州村田电源技术有限公司 (Guangzhou Murata Power Solutions Limited)
Hong Kong	村田有限公司 (Murata Company Limited)
Taiwan	台湾村田股份有限公司 (Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.)
Korea	韓国村田電子株式会社 (Korea Murata Electronics Company, Limited)
Singapore	Murata Electronics Singapore(Pte.)Ltd.
Thailand	Murata Electronics(Thailand) , Ltd. Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics(Malaysia) Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc.
India	Murata Electronics(India) Private Limited
Vietnam	Murata Electronics(Vietnam) Co., Ltd.

- 情報開示
- 配当政策

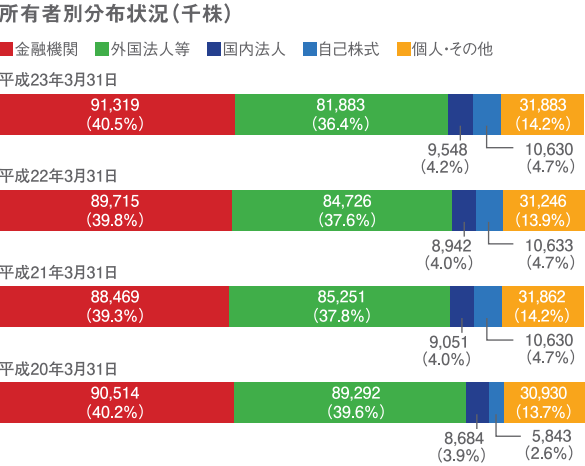


役員一覧 平成23年7月1日現在

代表取締役	取締役社長	村田 恒夫
	取締役副社長	藤田 能孝
取締役	村田 恒夫	
	藤田 能孝	
	家木 英治	
	牧野 孝次	
	棚橋 康郎(社外取締役)	
	吉原 寛章(社外取締役)	
監査役	常勤監査役	中山 素彦
		吉野 幸夫
	監査役	平岡 哲也(社外監査役)
		山田 英暉(社外監査役)
		豊田 正和(社外監査役)
執行役員	専務執行役員	後呂 眞次
	上席常務執行役員	井上 純
	常務執行役員	家木 英治
		坂本 秀夫
		牧野 孝次
		山内 公則
	執行役員	鷹木 洋
		西村 昌雄
		濱地 幸生
		小島 祐一
		井上 亨
		山岡 修
		間所 新一
		岡田 剛和
		中島 規巨
		藺田 聡
		岩坪 浩

株式の状況 平成23年3月31日現在

株式事項	当期末発行済株式総数	225,263千株
	当期末株主数	78,164名



株式上場	〔国内〕	東京証券取引所 市場第一部
		大阪証券取引所 市場第一部
	〔海外〕	シンガポール証券取引所

大株主の状況 平成23年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	13,451	6.3
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	12,302	5.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	9,480	4.4
日本生命保険相互会社	9,201	4.3
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,338	2.5
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.4
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	3,896	1.8
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	3,475	1.6

(注) 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(10,630千株)を除いて計算しております。

Innovator in Electronics、スイッチプレクサ、エミフィル、ポジスタ、イオニシモ、ムラタセイサク君、ムラタセイコちゃん、株式会社村田製作所の登録商標または商標です。WirelessHDは、サイビーム・インコーポレーテッドの、Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標または商標です。

Innovator in Electronics



村田製作所



このパンフレットは環境
に配慮し、植物油インキ
を使用しています。